



演繹推論では店長は「次の日曜日はジュースの仕入れを増やそう」という規則を導きました。

店長は先ほど演繹推論した予測に基づき、以下のような仮説推論を行いました。

仮説推論とは、実現したい結果を達成するための方法を仮説として立てる論理推論です。

「ジュースの仕入れを増やす（動機）ためには、
新しい仕入れ先を見つける（ゴール）必要がある」

- ▶ 「新しい仕入れ先を見つけるためには、
企業データベースを活用すればよい」
- ▶ 「企業データベースを活用するためには、
仕入れ先の条件を明確にする必要がある」
- ▶ 「仕入れ先の条件を明確にするためには、
仕入れるジュースの種類を明確にする必要がある」
- ▶ 「仕入れるジュースの種類を明確にするには、
ジュースの種類と需要を明らかにする必要がある」

したがって、

「新しい仕入れ先の選定には、

ジュースの種類と需要を明らかにする必要がある」

Point!

このように仮説推論は、何らかの動機
があって、それを実現するための
ゴールを達成するための方法（仮説）
を考えていくことです。

仮説推論において大事なことは、その
方法（仮説）やその組み合わせ方が妥
当かどうかということです。

【適切な疑問】

● この仮説より、これまでの取引先や同業者の縁故を頼った方が効率的ではないか？

導いた以外の方法（仮説）は無数にあり、他の方法の有効性を問うことは適切な疑問です。

● ジュースの種類と需要を明らかにしなければ、仕入れるジュースの種類は明確にならないか？

仮説推論における「BするためにはAする必要がある」において、

裏を疑うことは、方法（仮説）であるAの妥当性を疑うことになるので適切です。

● 仕入れ先の条件を明確にする方法と新しい仕入れ先を見つける方法（データベース活用）は、

目的の具体性や意思決定段階が異なるのはではないか？

組み合わせる個々の方法（仮説）が有効な条件は異なるので、

異なる条件の方法（仮説）を組み合わせることの妥当性を疑うことは適切です

【不適切な疑問】

× ジュースという新しい商品を導入するよりも、アイスクリームに絞るべきではないか？

仮説推論の大前提となっている動機やゴールを疑うことはNGです。

そもそも仮説推論すること自体が無意味になってしまいます。

× 企業データベースを活用しないならば、仕入れ先の条件を明確にする必要はないのか？

目的と手段の履き違えています。方法（仮説）として妥当かどうかを問うことに意味があります。